

在住ムスリム外国人女性に対する Culturally Appropriate Maternity Care モデルの構築: 日本での妊娠・出産・産褥期の経験に焦点をあてて

著者	五味 麻美
学位名	博士（看護学）
学位授与機関	聖路加国際大学
学位授与年度	2020
学位授与番号	32633甲第197号
URL	http://hdl.handle.net/10285/00016449



氏 名：五味 麻美
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第197号
学位授与年月日：2021年3月10日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論文審査委員：主査 五十嵐 ゆかり（聖路加国際大学教授）
副査 大田 えりか（聖路加国際大学教授）
副査 木下 康仁（聖路加国際大学特命教授）
副査 松岡 悦子（奈良女子大学名誉教授）

論文題目：在住ムスリム外国人女性に対する Culturally Appropriate Maternity Care モデルの構築－日本での妊娠・出産・産褥期の経験に焦点をあてて－

博士論文審査結果

研究の目的は、『在住ムスリム女性に対する Culturally Appropriate Maternity Care (CAMC:文化的に適切な助産ケア) モデル』を構築することであった。過去5年以内に日本での出産経験のある在住ムスリム女性12名に半構造化面接を行い、経験の語りをM-GTAによって分析を行った。結果、在住ムスリム女性が日本での妊娠・出産を通じて Culturally Appropriate な状態を形成するプロセスは、【マイノリティの洗礼】を受け、社会的相互作用の中で価値観や判断軸の【揺らぎ】や【折り合い】を繰り返しながら【神に拠り頼む】経験を重ね、【ムスリム母として強められ(る)】、自分なりの価値基準を他者に開示し、共有できるようなる、ということが明らかになった。さらに、[宗教を尊重したケア]、[障壁を下げるケア]、[揺らぎを支えるケア]、[折り合いを支えるケア]、[意思決定とニーズの実現を支えるケア]の5つを助産ケアの柱とし、肯定的な出産体験と母子保健アウトカムの改善を目指す『在住ムスリム女性に対する CAMC モデル』が構築された。

審査においては、以下についての修正が必要とされた。

1) 研究対象者の概要

対象者の特徴を把握するために、背景を表に示す必要がある。

2) 結果図に示している概念やカテゴリーの位置

中心的となるカテゴリーが何であり、それはどのようなカテゴリー間の構成であるのかについての説明が必要である。

3) 結果図に示している矢印について

全体の構造に関する説明の記述が不足している。特に左右にある矢印の意味するところが不明確であるため、説明が必要である。

4) 結果図とその説明について

結果図に示されていないがプロセス図に示されていたり、結果図に示しているカテゴリーの説明がなかったりと一貫性がないため、図示している全てにおいて説明が必要である。

5) Culturally Appropriate を形成するという表現について

culturally appropriate という概念やそれに基づくケアを探るのは、あくまでも調査者の側であり、ムスリム女性たちの語った内容と、調査者の側が持つ概念とは区別しておく必要がある。ムスリム女性たちの語った内容を、調査者の側に引き付けて **culturally appropriate** なケアモデルを探るのは調査者側の作業であり、ムスリム女性の語りの内容に対して「**culturally appropriate** を形成する」というのは、エミックとエティックを混同しているため、再検討が必要である。

6) ケアモデルについて

ケアモデルの4つの柱に結果が効果的に反映されていない。概念分析の結果が混在する事によって、**M-GTA** によって導き出された結果が在住外国人全般に通じる内容になっている。また、専門性の発揮、看護力の向上、肯定的な出産体験、母子保健アウトカムの改善等は、どこから出てきたアウトカムであるのかも不明確であるため、説明が必要である。さらに、主語の異なる2つの認識が一緒になっており、結果とケアモデルの関係が不明確である。ケアモデルは結果を考察した後に作成されたものであるため、ケアモデルの示し方について再検討が必要である。

審査員によって論文が適切に修正されたことが確認された。

本研究は、ムスリム女性の経験の複雑さとそこに意味を求めていく能動的なプロセスが深く解釈され、詳細に記述されている結果であると高く評価できる。また、多くの助産師にとって断片的であったり、想像でしかなかった在住ムスリム女性の日本での妊娠や出産の体験を、**Culturally Appropriate** な状態を形成するプロセスとして図示したことに新規性があり、日本の異文化看護領域への大きな波及効果があるといえよう。さらに **CAMC** モデルは、実践への活用方法を提示することで、ムスリム女性へのケアの向上に寄与していくことが期待される。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。